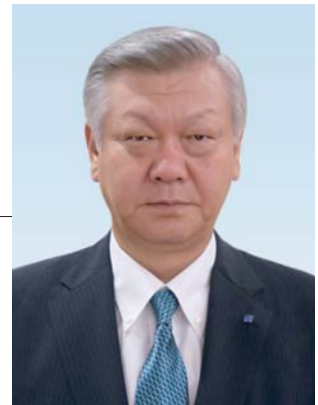


DISCLOSURE 2017

ごあいさつ



理事長 石井 一清

みなさまには、平素より「中国ろうきん」をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

本年7月に九州北部で発生した豪雨災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害を受けられましたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

さて、2016年度の日本経済は、英国のEU離脱や米大統領選挙に伴う海外経済の動向に左右され、先行きの不透明感が高まりました。産業界においては、企業業績の回復傾向が続き個人消費は底堅く推移しましたが、実質賃金の本格的な改善には至っておらず、勤労者の生活向上までには実感が伴わない状況が続いています。金融環境では、日本銀行のマイナス金利政策導入により金融機関の収益環境は非常に厳しく、個人融資市場の競争が一層激しくなりました。また、金融とITを融合した新たなサービスの提供や人口減少をにらんだ再編加速など、金融業態全体において持続可能なビジネスモデルの構築に向けた動きが活発になりました。

2016年度は、第5期中期経営計画の中間年度として、適正利益確保のため収支改善プロジェクトを立ち上げ、経営体質の抜本的な改善を図るべく融資推進やコストの見直しを行いました。また、9月から12月にかけて「家計応援キャンペーン」を実施し、金利5倍定期預金や3段階固定住宅ローンを取扱いました。その結果、預金やカードローン残高純増計画を達成するなど一定の成果をあげることができましたが、融資残高純増計画は未達成となり、残念ながら経常収益は前期に比べ減少しました。

そうした中でも、「ろうきん」は福祉金融機関として、会員企業の工場閉鎖や一時帰休により収入減少を余儀なくされた勤労者に対する相談会や個別面談を実施し、勤労者生活支援特別融資制度の活用等により、勤労者の生活を守る活動を行ってきました。こうした活動は「ろうきん」ならではの取組みとして、今後も継続していきます。

2017年度は、第5期中期経営計画の最終年度として、厳しさを増す金融環境に対応するため、住宅ローンに過度に依存しないビジネス・モデルへの転換をめざしていきます。具体的には、勤労者の多様なニーズを踏まえた、より質の高い商品・サービスの提供とともに、生活防衛や可処分所得向上に向けた「家計の見直し運動」や勤労者視点にたったコンサルティング機能の発揮など、勤労者福祉金融機関としての役割を發揮します。

また、厳しさを増す外部環境は経営体質を改善する契機と前向きに捉え、効率的な業務運営の追及とともに適切なリスク負担による収益力向上施策を検討し、安定した経営基盤の構築を図ります。

ここに「中国ろうきん」の事業方針、事業概要、業務内容および財務状況等について、広くみなさまに情報を開示することを目的として、2017年3月期ディスクロージャー誌を作成しました。

つきましては、小誌をご高覧いただき、私ども「中国ろうきん」に対しますご理解を一層深めていただければ幸いです。

2017年7月